



2026 年 8 月 26 日

株式会社あいち銀行

金融庁「FinTech 実証実験ハブ」支援案件 「トークン化預金の銀行間決済」検証への参加について

株式会社あいち銀行（代表取締役頭取 鈴木 武裕）は、2026 年 4 月 3 日に採択され、既に検証を開始している金融庁「FinTech 実証実験ハブ」の支援案件「トークン化預金の銀行間決済」（以下、本実証）に参加したことをお知らせします。

記

トークン化預金（Tokenized Deposit、以下 TD）や、ステーブルコイン（Stablecoin、以下 SC）等、ブロックチェーン技術を活用した新しいオンチェーン^{*1}での決済が、グローバルで急速に社会浸透しています。その際に論点となるのが、マルチバンク対応です。例えば、複数の銀行が預金をトークン化し、銀行間をまたいでユーザーが TD を移転できるとなると、その銀行間決済をどのような方法で行うかが論点となります。日本国内においても、既に複数の銀行で、TD の発行やその対応が開始されています。そのため、上記論点は社会課題となっており、「TD の銀行間決済」を実現していくことが求められています。

本実証では、「オンチェーンでのユーザー間取引は、その銀行間決済もオンチェーンで完結させる」ことを主眼に、検証を開始しています。すなわち、複数銀行にまたがるユーザー間での TD の送金にかかる銀行間決済を、オンチェーンで行う方法です。24 時間 365 日、全ての取引を RTGS（Real-Time Gross Settlement：即時グロス決済）にすることで、新たなビジネス機会の創出や、決済コスト・決済リスクの低減等が出来ないか、その適法性、有用性、実現性等の観点から検証を開始しました。

検証する実現方式は主に 2 つです。第一に、民間銀行の 1 行が幹事行となり、TD 上のユーザー間送金と幹事行内における TD 上の銀行間決済を同時に行う TD 幹事行方式、第二に、TD 上のユーザー間送金に関する銀行間決済を、SC を活用して行う TD-SC 連携方式です。それらに加えて、TD の銀行間決済を、既存の決済システムに連携する方式も検討していきます。

2026 年 8 月 20 日に、本実証の参加企業と関係者が集まり、本格的な検証を開始しました。

本邦においては、2026 年 3 月 3 日、FIN/SUM（フィンサム）2026 において、日本銀行植田総裁が、中央銀行マネーのトークン化の可能性を検討する方針を示しました。また、2026 年 7 月 21 日、「経済財政運営と改革の基本方針 2026」が閣議決定され、成長を支える資金供給の促進として、TD を含むオンチェーン金融の推進を図ると言及されました。本実証では、そうした動向も注視しつつ、今後の議論や検証に積極的に関わっていく所存です。

*1 オンチェーン（On-chain）：ブロックチェーン上で実行・記録される高速・低コストの取引

参考：金融庁「FinTech 実証実験ハブの設置について」

<https://www.fsa.go.jp/news/29/sonota/20170921/20170921.html>

以 上